

京
城
日
報

神武天皇三十八年



天皇皇后兩陛下は、本日（今日）を以て、大和畝傍山陵に御幸啓あらせられ、皇祖武千五百年祭を親修あらせらる。之れを、史に徴すれば、曾て一千年祭に、曾て武千百年祭なし。今回の御親修は、之を日本より謂へば、固より古來未曾有の盛典にして、而して列國多し。雖も帝王の祭祀、武千五百年に繼續するもの、絶えて存するなし。之を世界的よりするも亦た未曾有の盛典たるを失はず。惟ふに皇統連綿として萬世一系、敢て他の覬覦を容さざるもの、皇祖盛徳無邊、其の民心に入る深きが爲めにして、其の勇武絶倫に在せしとは、申す迄もなく。而して其下に對して仁慈なる、自己の兵士を見ては「我子」と宣はせ玉ひ、國民を見ては「大御寶」と稱させ玉ふ。而して列聖相承け、其德澤の及ぶ所普天率土、遐邇なく、亦た親疎なし。皇祖東征、都を橿原に奠め玉ふや、曾て皇軍に反抗せし敵將をも部下に收めて、牧民の任に就かしめ玉ふ。彼の上古に於て、屢次兵を此地に出させ玉ひたるが如き、親交國を外敵の襲來より擁護し、生民をして其堵に安んぜしめんこの聖意に出でたるものにして、日韓併合、亦た此の聖意に出でたるに外ならず。試みに十年前の朝鮮と今日の朝鮮とを對照せよ。人文の普及、産業の發達に付ては、暫く言はず。其民生が誅求貪汚の政癘を脱し、生命財産の安固を確保せられ、破腹擊壤、各々其生を樂み、其業に勵むを得るもの、即ち併合の實にて。即ち我が皇徳の然らしむる所たらずんばあらず。古を思ひ今を察す、皇祖の德澤、山高水深、比するに足らず。吾人聖世に遭遇し、遙かに古今未曾有の盛典を拜するを得、感恩無量、禁ずる能はざるものあり。日人然り、鮮人亦た然るべし。吾人は日鮮人を代表して、茲に皇澤の更らに四邊に光庇せんとを祈る。

神武帝



神武大帝

本日は、大和郡橿原市東北御陵に於て、皇室祭祀の規定により、神武天皇二十五年（紀元前）の御式年祭を行はせられ給ひ、畏くも、聖上陛下に於かれられて、劍璽を奉じ、文武の百官を率ひ給ひて、御参拜あらせらるる申す迄もなく、御式年祭は、實に百年に唯一度行はせられ

建國の基石なるを失はざる也。茲に
建國の基盤成るや、帝は先づ加世田
港より北航し、華北八代の海を越え
て三角嶺より加世田に入り、那馬室に
駐蹕あらせられて、武裝の兵を募り
て、**臺元**、**元**、**瀨**、**命**の誓に結ぶ**萬葉軍**を
加へ、**玆**に愈々其の實行に著手せら
れ給へり。而して**大**、**帝**、**加世田**の目的、**地**
として、**臺**、**元**、**瀨**の言に歸せ給ひ

一掃附藩を經、明石浦頭の要害な
も無事突破し、船越州岨にて、河内
國白旗津に著する。長崎彦彦に兵
を率ひて、皇國の上陸を防ぎしも、
直に擊退して、上陸遊はされ、進
む。香川(彌生)に、又たは驛を占
む。戰ひ、五瀨衛に、敗の流矢を唐
經に受け給ふ。此處より更に兵を遣
して、紀州に向はれたるが、舟に逢
に紀州軍出づて、船を給ひしより、之

居り、其勢を盛し、遂に勢余邑の東に
破城を破したる後には、大倭國をす
んで靡けり。茲に於て武力的建國の
時期は去り、之より政治的方面に致
り、勢余を根本と定め、良地を覓め
て、敵降出の饒なる、檀原を宮處と
相定む。此處に萬世の系を皇系と爲
て、全く建國を終へ給ひ皇統赫々
檀原に永く高懸たる宮殿を仰いで、
土殿に建するも万民等の瞻光には、

▼ 滿鮮に會て例

新 奇 拔 な

▲ 引換區 域 哀

▲ 引換期間 當

なご最も

空袋引換

城龍山仁川三市内に限
分の間引換致します

精よ、いと重き大祭にして、因て以て大孝を萬世に示し、聖祖の道を知らしめ、教を不朽に垂れて、追遠の教を致すの、御志旨と稱察し奉り、有り難しとも有難き、御大祭なり。謹按するに、神武大皇帝が、皇紀五十四年、都を大倭に遷されんとし給ひたるは、既に日本建國天皇上の第一頁を飾る、最大項目にして、之に、上古に於ける大壯舉、我

たるものゝ如く、實行期に入りし大
帝の進軍は、堂々として、軍容大に
振ひ、土氣旺盛にして、軍馬の動
處、風を望んで投擲するもの多く、
甲寅十月日向を發して、翌月は岡田に
到り、四十餘日にして安樂に入り給ひ、
又安吉、柳井所にて、久米兩部
曲の兵を中國へ發し、並節
更に鑿ひ、東征
續ひぬ。進ん

ひ、組州の諸賊と戰を交へ、或は斬り、又は降し、煥爛を煥えて大倭營の、大壯舉を行ひ給へり。

按ずるに、當時の大倭は、諸族各所に據り、光景恰も臺灣に於ける、生番各社及び、土匪に勢勝たるものありしなるべく、大倭は給へんとするは、今の臺灣討伐の如き比に非ざりしを思ふ。而も義賊惡戦、首賊を

皇祖二千五百年祭
森安 墨城
山は歸り萬古の春祭やじそかに
野田 大塊
植を玉ひけり咲く敷島の山櫻

○
○
○

□寫眞說明

神武天皇御陵に行幸
啓あらせらるゝ天皇
皇后兩陛下

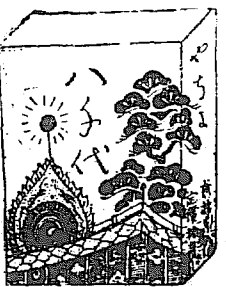
大正四年四月
京城
東亞煙
幸運者
は
三代表煙愛用

煙草株式會社
何方でしうか
家の特權

奉 祝 式 年 祭

景品種目

▲一等	小形化 粧道具 個一	本
▲二等	置時計 個一	本
▲三等	ニッケル マツヂ入 個一	本
▲四等	五	本



御渡致します

御注意
 抽籤は豫定抽籤券一千枚に達する毎に
 豫め新聞に廣告して發表致しますから
 精々御持參御引換の上景品御受取を願
 ひます

大正四年四月

京城
 東亞煙草株式會社

幸運者は何方でしょうか

三代表煙愛用家の特權

祭 年		景 品 種 目	
▲一等	錦帯	▲一等	小形化粧道具
▲二等	一本	▲二等	置時計
▲三等	一本	▲三等	ニツケルマツチ入
▲四等	一本	▲四等	個十五本
▲五等	一本	▲五等	マツチ入

式

空 袋 引 換 箱

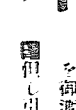


引換期間 當分の間引換致します

■左記何れの券袋二十枚御持参の方には抽籤券號を貼付したる歌島一包を差上げ

■之れが一千包に達する毎に抽籤の上左記の景品を御渡致します

■但し引換券袋に「朝紙の封紙紙貼用のものに限



おもしろ
さん

▲引換區域
京藏龍山仁川三市内に限

四年中の統計は、処女産数を、

年	十二月	十一月	十月	九月
昭和六	二四、六	二四、四	二四、四	二四、一
昭和七	二四、五	二四、六	二四、六	二四、一
昭和八	二四、一	二四、一	二四、一	二四、一

〇

三、慶山 七七、八二、係節、
德、沃川、島致院、勿禁、永同等、京州六〇三五古穰院、三〇九にし月

以後に於ける米價の目々好況によ

は共謀し大正四年舊六月より八月

至一年六箇月の判決となりたる
服として成る所去るを全乖し
住宅に於て平倉並兵出眼所の
置

られ、三法御

木の實際論が勝利に近いて來た。伊
回より純理論鋒が鈍くなつて、伊
木の實論論が勝利に近いて來た。
「申すまでも恐れ多い事ながら、北品
は、御公道達の中に於いて、最も不實
の御方おさるゝ。故右府公の
勇を以て、國司家を驅逐せられど、
右府御他家の権は、御家を保たるゝ
さへ、甚だ覺束さず御情勢、味に御
性質暗愚驕淫にして、將に將なる御
家おさるゝ。近く誅せられた國司
座禪し居れば様もさる木の芽風
われ新割行人に木の芽晴るゝ
涙ぐみ手のかくもに木芽立
木の芽風に送らるゝ。見れば
見のびて、木の芽の丘つ
木芽でござへば、曉りつけ
根根まで張る様の芽を模造なる
さくさく引つ越へ木芽吹
土はこふ創面と庭木の芽に
つんつんと木の芽立つて崖登り
風抜りゆく木の芽のやうさ
木の芽の摘みこむてさ東の満

圖傳仰の歡び (三)

木の芽 浮雲樓



何兵衛と云ふ努力は如何やうなう。我と家とをさへ御別なき風將に従ひ給はく、果は彼等三人衆同じく、悲愴なる御運命に沈ませれませうぞ。いや／＼其までもおぼらぬ。今度の一戦、羽柴殿に勝つてゐる、再び起ち懸き敗軍に終るゝまで、大空を仰いで月を指すより、白ぶざりする」とまで、清兵衛は極言し、鮮色赤に大だ協属でつこい（勝負）奮は欣然として歸つ來た。言ひ争ひ兩人をきつと制し「争ひは無益ぢや、入道が心は決んだ」と明言した。

今まで兩端に迷つてゐた滿座の士は、呼吸を呑んで上座を凝視し

コツバ會三月例会

(三月十九日於西大門俱樂部)
會場は西洋館の一室で、重く下りの相違なく天の輝け高く曇らずして、四週は無難に花開いた。數年前の満洲に於ける日本人の生活状態は、悉く與つて異なるが、此處では地盤を致さず太幅足のかま括弧に支那語を施す者も、大に聞かざる。席上は俄かに某城の物語を同人凱行傳記に接するが、遠隔の地方現されてあると思ふ。(同人記)

降る雪の地中の春に吸ひ
草青む此日偶々野に出でし
草青む此日偶々野に出でし

袋人

京城學校組合告示第六號

六正四年度京城學組合聯合要入出帳報告書
本校四年級生(記)通り更正ノ件取次
學校組合會長 義孝 謹啓
大正五年三月三日

朝鮮總督府 府計金令
更正稟呈
第一款事務費 全一萬六千五百一十圓
第二款給料 全九千二百八十八圓
第三款小什費 全七千六百六十二圓
第四款原給料金一萬六千六百二十二圓
第五款給料金一萬九千六百四十圓
第六款雜給料金四千五百拾八圓
第七款薪給部費金八千九百拾五圓
第八款出賃部費金拾九萬九千三百三十一圓
第九款小學校校費金二萬八百六十六圓
第十款西大門小學手工室新築費金四萬六千九百六拾七圓
第十一款臨時會計金二拾四萬六千三百五拾七圓
合計金一拾四萬六千九百六拾七圓

新刊書御案内

ガイゼルの裏面クレペリン博士定評名探訪新聞合編 六七
女和歌の作りやう歌讀解合編 六六
畫家の妻 廣成堂藏 六六
百鬼園の粉粹遊記 泉永 三五
金魚のうちこそ 上池 三五

[illegible]

市內有變子類、黃色染料、一桶、
 市內有藥酒二百九拾瓶、一箱、
 ▲電話二五九五番 荒川仁壽庵
 ▲配達人常樂 希望者臨町田新開部
 欲く求談あり
 京成廣町
 有鐵道五十名募集
 京成廣井門二八八九 電三九一二
 朝鮮 石經總督會

●古本買入 ●朝報送金 京成本二に
 電話八六五 森田文堂書局
 所賣金剛三黃金藏出日本建方店
 主開設中に空地有官吏に竊す五斯の
 被備水運行客貨付船四期八九九號に
 ●學生高生 ●教科書類高價買入の爲
 京成本三町二丁目三五二七ヨギヤ書店
 守一今書つて申込たまへよ！(今編し)
 刊行雜誌志願通信 ●電二七八
 ●古本なら野村 購入誠實御報參々
 京成本三町一丁目日南通信社 16
 電二六〇一丁 野村書店

番外 匿名新聞記者(全盛時)用
朝鮮諸官廳受講義費
 全部七冊金一圓九錢 送料十四錢
 京城趙正振替京城一先文會
 朝鮮駐日朝鮮新聞社分會

▼電話ニツル(但し)
 相當附金の利便あり
 御希望の御方は
 龍山電話二四六(仰來談を乞)

正誤 昨二日朝刊二面星城岸上
岸田出張所はまよ玉京城岸田出張所の
の誤植に付正誤す

酒煙草きらい
なる禁

禁酒丸 **禁煙液**

さんな酒煙草のみでも飲た吸た人々及
大樽以上の禁酒器を造れば証明書及び
其他の上の禁酒論論進呈
本館大阪市朝南通二森田商店
三田本館にて一時間前着し包弁除
日本郵政特便 送料掛金五銭云々

満蒙處分論 定價金一圓

京日案内

普通 原名() 金北町()
果樹園、京城接連地にて三千坪、及
實利屋、小作等にて親知人に通
り廻り、一月半、出張所迄二、三、八

生皮齒車
鐵革車具
其他工業用品等

品質保證 在販豐富

朝鮮總代理店
鐵 齒 白 神 洋 行
仁川本町四丁目

表價 大銀
送呈 次第

木町二丁目に花卉を盆栽
觀賞樹 山樹 果樹
庭請負 植木職供給
其他園藝一應事業

種子の出賣賣あり
吉野櫻、八重櫻、一院院櫻、立田櫻
ニセアカシヤ、赤、黒松、大、白松
京城植物園 東大門内
各種梅、銅、銅、銅、銅、銅、銅、銅
云々、吹、吹、吹、吹、吹、吹、吹、吹
各種、蘋果、梨、梨、梨、梨、梨、梨、梨

日韓書籍房

新報廣告

安井著	陸海軍史論	定價八角
加藤著	探訪	定價七角
岡本著	女	定價六角
葛原編	小學國語辭典	定價八角
國語編	小學國語辭典	定價六角
究會編	小學國語辭典	定價六角

目丁二町南城京

婦人科
產科
中央婦人病院
電話二四〇〇番

優

本
電
話
番
號

[illegible][illegible]

金人基子之惡を知りて
言こそし
(大學)

刑妻トク儀像て病氣の處藥
石効なく今日二病死去我候
に付不取明三日午後一時
當地にて假葬執行郷里大
阪にて本葬相替り候條此段
謹告候也

四 福壽洋行主任
京都府淺江通

石尼崎汽船正出帆
 秀吉丸 三月 日後四時出帆
 大丸 三月 日後四時出帆
 神代丸 四月 日後四時出帆
 咬丸 四月 日後四時出帆
 君代丸 五月 日後四時出帆
 日後四時出帆
 杉回 箱部

汽船釜山出帆廣告

門司神戶、大阪行 四月 九日午後五時出帆
 立神丸 四月 日午後七時出帆
 門司、神戶、大阪行 四月 日午後五時出帆
 小倉丸 四月 日午後七時出帆

元山、地津、浦鹽行 四月廿六日午後十時出帆
 小倉丸 四月廿六日午後十時出帆
 元山、西洲、新洲、城津、津濱行 日後六時出帆
 第三樂平丸 四月 日後六時出帆
 門司、宇品、神戶、大阪行 第三樂平丸 四月 日後六時出帆
 伊須奈、原原、釜山、博多行 天眞丸 四月廿六日 午後十時出帆